

5 令和6年度学校評価結果一覧表

教育目標【スクールミッション】「**自律 創造 敬愛**」の理念のもと、知・徳・体の調和のとれた人格を備え、新しい時代を担い、地域や世界に貢献できる人材を育成する。

| | |
|-----------|-----------------------------------|
| 自律 | 自らの規範意識を高め、社会の一員として調和のとれた人格の形成 |
| 創造 | 主体的な学習活動を通じ、個性を発揮し新しい時代を創造する能力の育成 |
| 敬愛 | 自然を敬い、自他の命を尊重し、互いを愛し認め合う心の涵養 |

スクールポリシー

【育成をめざす資質・能力に関する方針/グランドエデュケーション・ポリシー】(GP)

- ① 社会の一員として調和のとれた人格を育む。
- ② 自ら学び、考え、行動できる能力を育成する。
- ③ グローバル教育及び理数教育を推進し、社会の変化に柔軟に対応し活躍できる人材を育成する。
- ④ 自分を認め、相手を認める思いやりの心を育み、命を大切に、人権を尊重する態度を養う。
- ⑤ 科学的リテラシーと課題解決能力の向上を目指し、社会貢献できる人材を育成する。

【教育課程の編成及び実施に関する方針/カリキュラム・ポリシー】(CP)

- ① 探究活動を中心とした幅広い視点から深い学びの実現を図る。
- ② 外研機関と連携した実践的・体験的な学びを展開し、各種コンテストや発表機会の活用推進を図る。
- ③ 充実した情報環境を活用した質の高い授業により、分かりやすく伝ええる授業を展開する。
- ④ 単位制ならではの多様な選択科目の提供を通じて、生徒個々に応じた学習機会の確保を進める。
- ⑤ ICT 機器を活用し、情報活用能力を高める学びを実現する。

(評価および点数化)

教員は行動指標の事例を参考にして実践目標に対する自己評価を総合的に判断して4件法で評価。

「十分できている=4点」「概ねできている=3点」「あまりできていない=2点」「できていない=1点」で評価を点数化。

保護者・生徒はアンケート項目について4件法で評価。「そう思う=4点」「ややそう思う=3点」「あまりそう思わない=2点」「そう思わない=1点」で点数化。

表中の数値は、平均値および3点以上の人数の割合である。

()内の数字は昨年度の評価である。

| 教育目標 | 評価の観点 | 実践目標 | 教員対象・行動指標の事例 | スクールポリシーの達成 | | 教員自己評価 | | 保護者・生徒アンケート項目 | アンケート結果 | | 各部・年次の考察 |
|-------------|------------------|------------------------------------|--|-------------|----------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|----------|
| | | | | GP | CP | R6 (R5) | R6 (R5) | | 保護者337 | 生徒669 | |
| A.自律 | 授業力向上 | 主体的な学び・課題解決能力の向上という視点で授業を構築する | 生徒が主体となる授業展開を計画し、工夫された学習活動を單元や授業単位で実践している ICTの活用やユニバーサルデザインの考え方を活かすなど、わかりやすい授業をおこなっている | ①② ③⑤ | ①②③ | 2.91 74% (3.14) (94%) | 3.06 83% (3.04) (70%) | 3.06 79% (3.14) (70%) | 2.92 83% (2.78) (70%) | 教員の自己評価が低くなっていることについては、教員の意識が向上している結果と考察できる。実際、生徒保護者のポイントが上がっており、授業に不満があるとは考えにくい。授業改善における教員一人ひとりに意識が向上したことにより、「できていない」と感じるボーダーラインを引き上げることができたと分析でき、今後は実際に行動に移し、お互いの取組を共有していく必要がある。 | |
| | 特別活動 | 本校の教育目標をふまえ、生徒の主体的な取り組みを念頭に企画・運営する | ・学校行事、年次行事では計画段階から生徒の参加を促し、生徒がより主体的に取り組めるようすすめている ・特別活動に関するSPQCAサイクルを意識し、生徒に行事の意義やねらいを理解させている | ①② ③⑤ | ①② | 2.91 77% (3.02) (84%) | 3.21 89% (3.25) (90%) | 3.22 89% (3.13) (86%) | 3.17 89% (3.13) (86%) | 教員は生徒がもっと主体的に活動できるという期待があり、企画や計画から自主的に取り組んで欲しいという思いがある。一方で、生徒はある一定の枠組みの中で精一杯やっていたという自己評価があり、この満足度につながっていると考えられる。決して悪い状態ではないが、それぞれの活動の意義やねらいを理解させたうえで、生徒の自主性を引き出す工夫が必要である。 | |
| | 部活動 | 部活動の意義を理解し、生徒の意欲や主体性を伸ばす | ・「いいき部活動」をふまえて活動をおこなっている ・生徒と積極的なコミュニケーションを図り、生徒の意欲や主体性を伸ばす活動をおこなっている | ①②④ | — | 3.14 80% (3.12) (88%) | 3.02 75% (3.05) (78%) | 3.17 85% (3.07) (81%) | 3.17 85% (3.07) (81%) | 教員、保護者、生徒の3者とも昨年度と同じく、大きな差はみられない。生徒の満足度は向上しているとはいえ、生徒の主体性を高めるために、さらなる改善が求められる。また、中学校での部活動の社会体育への移行の動きを踏まえ、今後どのように部活動を行っていくかを念頭に置き、検討していくことが課題である。 | |
| | 生徒指導 | 規範意識を高め、社会の一員として相応しい資質を育む | ・生徒指導委員の委員をふまえ、生徒指導上の課題に対して自ら考え、行動できる力を育てる観点を持ってアプローチしている ・「学校生活の心得」の見直しなどに生徒が参加する機会を設け、当事者意識や社会規範について主体的に考えさせている | ①②④ | — | 2.83 74% (3.08) (88%) | 2.74 80% (2.76) (82%) | 2.99 80% (2.79) (70%) | 2.99 80% (2.79) (70%) | 生徒会を中心に校則の見直しを行い、何点か変更を行うなど、生徒の実情に合わせた対応ができた。生徒の満足度も向上しているものも確認されている。また、校内での取り組みを保護者へ円滑に告知し、広めていくことが課題である。また、教員の自己評価が下がっている原因をリサーチし、次年度に向けて改善していくことが課題である。 | |
| B.創造 | 探究活動・SSH | すべての生徒に対して探究活動を中心とした深い学びの実現を図る | ・体系的な探究学習を企画、運営し、すべての生徒に発表の機会を確保している ・SSHでは生徒の科学的リテラシー・課題解決能力の向上につながる学習活動を計画的に運営している | ②③⑤ | ①② ③⑤ | 3.20 83% (3.36) (92%) | 3.27 89% (3.28) (88%) | 3.25 90% (3.14) (84%) | 3.25 90% (3.14) (84%) | SSH事業の目的の一つが「全校体制での探究活動の活性化」であり、文系理系の区別なくSS探究の授業内容の深化に努めている。探究活動の指導については、PDCAサイクルを回し、指導方法の改善を行っているが、生徒評価が上がっている一方で、教員自己評価が下がっている。探究が「主体性を課題解決力を伸ばすもの」になっていることを教員・生徒ともに実感できるよう成果の見え方を図っていくべき。 | |
| | 国際理解・国際交流 | 異文化体験・異文化理解の機会を設け、グローバル教育を推進する | ・授業、海外との交流、SSHの関連事業を通して、国際化への意識の醸成もグローバル教育が適切に実施されている ・ALTの活用、多文化共生講座、異文化体験・理解の機会がすべての生徒に関与している | ②③ | ② | 3.14 86% (3.30) (94%) | 2.97 76% (3.01) (78%) | 3.10 83% (3.04) (78%) | 3.10 83% (3.04) (78%) | 国際交流委員会のおこなう事業は全校生を対象としている。海外研修のみならず、文化学習会、海外高校とのオンライン交流など興味があれば参加できる学習会も年間を通して多く開催している。短期留學生、海外視察の受け入れなど、校内で交流できる機会もある。成果は各種通信やブログ等で発信し、保護者に届けているが、発信力強化については今後も努力を続ける。 | |
| | 地域・外部連携 | 地域・外部機関と連携し、実践的・体験的な学びを展開する | ・高校生ふらっとと異文化共生事業やSSH等を通して、幼小中高は行政、民間団体と連携し、活発な交流を実施している ・交通安全啓発や奉仕活動等、生徒会や生徒有志によるボランティア活動をおこなっている | ①② | ② | 3.20 89% (3.20) (86%) | 3.00 74% (3.00) (76%) | 2.96 77% (2.85) (68%) | 2.96 77% (2.85) (68%) | SSH事業3期目の目標の一つに「科学教育・ハブスクール」として地域の科学教育の発展に貢献することを掲げている。その目標達成のために、地域住民や小中学生を巻き込んだ「科学SSHシンポジウム」や地校生を交えた研修会等を開催している。参加者は増加傾向にあり、成果が上がっていると考えられている。また、保護者の一環で行っている課題研究において、地域活性化をテーマとする生徒が増え、地域の活動に参加しなら研究を進めるグループも増え、広報活動を通じて、これらのことを校外に周知していきたい。 | |
| | 進路ガイダンス | キャリアガイダンスと探究活動を有機的に連携させ、進路を拓く力を育てる | ・進路指導と探究活動の連携のため、進路ガイダンス部、年次、関係機関の連携を強化し、綿密に取り組んでいる ・「夢めざしガイダンス」を通して目標設定を促し、生徒に高い目的意識と幅広い視野を身につけてきている | ①② | ② | 2.80 71% (3.28) (92%) | 2.99 77% (3.02) (81%) | 3.17 86% (3.11) (83%) | 3.17 86% (3.11) (83%) | 教員自己評価が大きくなり、生徒・保護者と対峙した原因を考え、各部・年次との連携強化を図る必要がある。一方で生徒評価は上昇しており、引き続き対話重視の進路指導を心がけてい。また、学習指導要領改訂に伴う「探究」必修化が総合型選抜等の結果にも現れ始めていることにも鑑みても、進路指導と探究活動の連携をさらに強化する必要がある。 | |
| C.敬愛 | 生徒理解 | 学びの主体である生徒の理解を深める | ・生徒との丁寧なコミュニケーションを主体として、職員間での生徒理解の共有をすすめる。生徒理解を深めている ・日々の生徒観察や生徒アンケートを通して、多面的な生徒理解を努めている | ①④ | ② | 2.97 83% (3.38) (94%) | 2.80 80% (2.79) (67%) | 3.02 80% (2.86) (71%) | 3.02 80% (2.86) (71%) | 教員からは生徒と丁寧なコミュニケーションを深めている様子が見えるが、保護者は十分ではないと感じている割合が多い。キャンパスカウンセラーからの情報発信など、相談できる場があることを告知するとともに、心理的安全性の高い集団作りも求められている。 | |
| | 多様性 | 生徒の多様性を尊重し、互いを認め合う資質を育てる | ・抱えやすくなる社会や新しい価値観に目を向け、多様性ある生徒のあり方に配慮した活動を行っている ・生徒の多様性を尊重する姿勢を持ち、学校生活で生じる課題に誠実に対応している | ①④ | ② | 3.03 86% (3.22) (92%) | 2.90 75% (2.85) (67%) | 2.90 74% (2.76) (65%) | 2.90 74% (2.76) (65%) | 生徒の学力層が広がったことにより、感じられる。その為、授業では個に応じた授業展開や課題の指示など、各教科において工夫されている。学校行事や部活動などの指導においても、個性を大切に指導を行っている。また、その成果が保護者・生徒の評価の向上につながったと思われる。 | |
| | 人権 | 命を大切に、人権を尊重する態度を養う | ・人権学習だけでなく、学校生活すべての場面で生徒の人権意識を高める働きかけをおこなっている ・教職員が本校のしめ防止基本方針を理解し、いじめ防止に組織的に対応する仕組みができている | ①④ | — | 3.20 89% (3.36) (96%) | 2.98 80% (3.00) (81%) | 3.19 89% (3.06) (82%) | 3.19 89% (3.06) (82%) | 中学校と比べると、人権学習や行事に費やされる時間は少ないので、生徒や保護者には十分でないと感じられているのかもしれない。一方で今年度、人権講演会を年次別でも行い、生徒の感想も概ね良好であった。 | |
| | 防災・危機管理 | 保健安全の意識を養い、学校防災・危機管理体制の充実を進める | ・防災基本計画、防災・危機管理マニュアルにおける自分の役割を理解し、いつでも見られる場所に保管している ・生徒に災害時の正しい対応について考えさせ、自らの命を守る行動を意識させられる機会をつくらせている | ②④ | — | 2.91 77% (3.08) (82%) | 2.88 71% (2.71) (75%) | 2.93 76% (2.96) (80%) | 2.93 76% (2.96) (80%) | 防災避難訓練、防災講話、交通安全指導等を行い、生徒への啓発に努めている。今年度の避難訓練はこれまでの火災避難に加え、地震発生時の避難行動を加えた。防災講話はLHRの形式で行なったが、年次別の教員として印象が残りにつながったと思われる。また、安全意識については、自転車事故が多かったことが影響していると考えられる。より充実した防災・安全教育に取り組むこと、それを保護者へ伝えたい。 | |
| D.学校運営・資質向上 | 単位制 | 単位制の特長を活かし、個別最適な学びの充実に向けた学習機会を保障する | ・習熟度別授業、少人数教育等でのきめ細かな指導をおこなう ・基礎基本から発展まで幅広い学習ニーズに対応している ・興味関心や進路希望に合致する受講登録のために、講座のねらい、計画、評価等がわかりやすい講義案を作成している | ③⑤ | ①② | 2.74 77% (3.04) (80%) | 3.00 80% (3.06) (80%) | 3.12 84% (3.01) (79%) | 3.12 84% (3.01) (79%) | 今年度、科目選択説明会の実施時間の見直しを行った。例年より時間が短く、説明が十分にできなかった科目もあったため、来年度に向けて進路説明会と併行し、時間確保をする予定である。また、習熟度別授業が形骸化していないか、さらなる工夫ができないか各教科に確認を行っている。 | |
| | 家庭・地域との連携 | 保護者・地域への積極的・効果的な情報発信に努める | ・保護者と連携し密に説明責任を果たすとともに、生徒保護者を共有し信頼関係を築いている ・公開行事、HP、メール配信、各種通信等を通じ、保護者及び地域に向けた本校の教育活動を効果的に発信している | — | — | 3.14 97% (3.32) (96%) | 3.09 87% (3.10) (83%) | 3.22 87% (3.15) (85%) | 3.22 87% (3.15) (85%) | 学校からは積極的に情報発信をしている。今後も保護者や生徒にとってわかりやすい内容になるよう、改善していく。 1年次～年次通信の発行やClassroom等での発信は、一方通行になっていないか、都度確認していく必要がある。配信だけでなく、生徒の健康状況が十分把握できず、電話でのやり取りが補完的に必要である。 2年次～年次通信の発行やClassroom等での発信は、保護者にどの程度伝わっているのか、心算がない。保護者では家までの連絡が有効であることは確認済みだが、来次の配信頻度がどのくらい増えたいかについては悩んでいる。 3年次～年次通信の発行だけでなく、ほぼ毎日のようにHPのブログの更新を行った。学校行事だけでなく、普段の授業や生徒たちの様子を保護者や地域へ発信した。保護者からは「楽しみにしている」という声も多数聞き、効果はあったのではないかとと思われる。 | |
| | コンプライアンス | コンプライアンスの意識を持って職務に専念する | ・教務手帳や個人情報を含む書類等は所定のロッカーや引き出しに必ず収納している ・考慮の審判用紙は定められた取扱要領に則って扱っている | — | — | 3.34 89% (3.20) (88%) | — | — | — | さらなるコンプライアンス意識の高揚と服従規律の遵守が求められる。特に、個人情報の管理の徹底、ハラスメントの防止など、高い倫理観を持って子どもたちと向き合う時間を確保し仕事に取り組む。 | |
| | ウェルビーイングの向上・業務改善 | 豊かな人間性・倫理観の涵養に務める | ・タイムマネジメント等業務改善を意識し、主体的に取り組んでいる ・専門性を高める研究、ボランティア、読書、スポーツ、旅行など、人間性を豊かにする時間を持つことができている | — | — | 2.69 63% (2.98) (84%) | — | — | — | 人間性を豊かにする時間を持つことは、ひいては生徒の成長に還元されることにはなるので、各自がタイムマネジメントを適切に行い、心身の健康保持に努めている。また、定時退勤前、1日部活動、一年生の取得、勤務時間の削減に大変な努力を推し進め、業務改善につなげてきた。 | |